

—東総ジュニアカップ新人戦大会規則—

—大会競技規則—

1. 最新年度「公認野球規則」「競技者必携」及び「大会特別規則」を適用する

—大会特別規則—

{出場資格及びチーム構成}

1. 成人者による代表者・監督・コーチ（2名）・スコアラー・介護員（2名以内）と選手（5年生以下）9名以上25名以内とする。ベンチ入り指導者（監督・コーチ）は認定指導者有資格者とする。
2. 部員数が1・2年生を除いて8名以下のチーム同士の場合は連合を認める。
※特例として選手数が1・2年生を除いて9名を超えていても選手数が8名以下のチームとの連合を認める。
3. 大会開催初日か次の週に必ず参加できるチーム。それ以降、大会に参加できない場合は辞退となる可能性があります。辞退となった場合は、参加費の返金はありません。

{服装・用具}

1. 同一チームの監督・コーチ・選手は、統一されたユニフォーム・帽子・ストッキング（アンダーソックス）を着用し、スパイクシューズは同色系とする。但し、連合チームは所属チームのものとする。（金属は禁止）
2. ヘルメットは「JSBB」公認マーク入りで両側にイヤラップの付いたものをベースコーチ、ボールボーイも使用する。バットは「JSBB」公認マーク入りの金属バットを使用し、破損（変形）・加工バットの使用は禁止する。
3. 捕手（控えも含む）は、マスク（スロートガード付及び一体化も可能）「SG」「JSBB」公認マーク入りレガース・プロテクター・ヘルメット・ファールカップ（女子選手は除く）を着用する。
4. 投手の守備を除き、選手（打者・守備）の手袋およびリストバンドの使用は認める。
5. 使用球は全日本軟式野球連盟公認球「J号球」とする。

{試合開始前}

1. 第1試合は開始時刻30分前にそれ以降は3回終了後に監督・主将がメンバー表（4部）、を提出する。その際にジャンケンにて先攻・後攻を決める。
2. ベンチは、抽選番号の若番が1塁側、後番が3塁側とする。
3. 試合前のメンバー交換後、次試合の両チームの先発バッテリーのブルペンでの投球を認める。
4. 試合開始は前の試合が終了後、約30分後としシートノックも試合開始時間に合わせ後攻チームから開始し時間は5分間とする。但し、前の試合の遅れまたは天候不安定等が生じた場合は、短縮または中止をして試合を開始する。ノッカーへボール渡しをする選手は、ヘルメットを着帽のうえ、前方からの手渡しとする。
5. 球場内の試合前において指導者立会いのもと守備ノック、バッティングを認める。

{試合}

1. 大会の試合形式はトーナメント戦とし、1試合（1時間30分）6回均等回で勝敗を争うこととするが、タイムゲームを優先する。1時間30分を超えたときは新しいイニングに入らずにその時点の得点を持って勝敗を決する。同点の場合は特別延長戦ルールを適用する。決勝戦も同様とする。
2. 得点差によるコールドゲームは、3回均等回終了後10点差または4回均等回終了後以降7点差とする。
3. 日没・降雨によるコールドゲームの適用は、4回均等回終了後に適用する（同点の場合は抽選とする）
4回均等回終了前については、再試合とする。
日没・降雨の判断は、当該球場責任者・責任審判員が両チームの監督を招集し協議して決定する。

4. 上記2・3項における「4回均等回終了」については、4回表が終了した時点で後攻チームがリードの場合4回均等回終了とみなしコールドゲームを適用する。
5. 同一投手の投球数は1日70球（特別延長も含めて）とする。1日2試合ある場合は1試合目で70球を投げた投手は2試合目では投球できない（1日合計70球）。
4年生以下の投球数は1日合計60球とする。
投手の変化球は禁止し、変化球に対してはボールを宣告する。再度繰り返した場合は、その投手は交代させる。（その試合での再登板も認めない）
6. 打者走者及び走者は、走塁の時ベースコーチまたは選手に触れてはならない。その場合走塁補助と見なしアウトを申告する。
7. 死球等により手当が必要とする場合には、臨時代走（コーティシーランナー）を認める。代走は打順前位の者（投手・捕手を除いても良い）とする。
8. 審判員に対するアピールは監督と当該選手に限り認める。また選手交代を行うときは監督が球審に申告する。試合中のメガホンの使用は監督に限り認める。
10. 1試合のタイム数の制限は、攻撃3回・守備3回・特別延長戦は1イニング各1回とする。
監督が投手と協議するときは、マウンドまで駆け足を励行すること。但し、同一イニングに同様の行為を2回行った場合は投手を交代させる。また、守備時にマウンドに3人以上集まればタイム1回と見なす。
11. アウトを取る意思のない投手の塁への牽制・送球は遅延行為と見なし審判員はバークを宣告する。
12. 申告故意四球を採用する。
13. 相手チームに対して悪質な抗議・野次等を行うチームに対しては、当事者または代表・監督の退場を大会責任者・球場責任者・当該審判が退場を命じることが出来る。少年野球にふさわしい応援をする。
14. 投手が投球動作に入ったら、攻撃側は投手の動揺を発するような声を発してはならない。

{特別延長戦}

1. 6回終了後または1時間30分を超え後攻の攻撃終了時で同点の場合は、特別規則を適用し、直ちに「特別延長戦」を実施すること。
2. 打者は前回の継続打者、走者は前回の最終打者が1塁として2塁・3塁の走者は順次打者として1死満塁で最大2イニング行いなおも勝者が決定しない場合は抽選とする。（決勝戦も同様）
3. 特別延長戦中の降雨・日没については全て抽選とする。（決勝戦も同様）
抽選方法は、球場責任者・責任審判員の指示に従う。
4. 特別延長戦での選手の交代は認める。但しすでに交代した選手の交代は認めない。

{審判規定}

1. 準決勝・決勝の審判は東総審判部が行います。その他の試合は各チーム2名の帯同審判をお願いします。
2. 審判員の飲み物に関しては各自用意する。
3. この規定以外の必要事項は、審判員が球場責任審判員と協議して決定する。

{特別規定}

1. 選手の成長の記録としてベンチ内での写真撮影を認める。（常識の範囲内で）